

---

# 闇を拭う笑顔

紫華

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

闇を拭う笑顔

### 【Nコード】

N7591L

### 【作者名】

紫華

### 【あらすじ】

テニプリの二次創作です。

また新しいの始めちゃいました。

今度の主人公はちょっと暗い過去を持つ女の子です。

さりげなく『幼なじみは芸能人』とリンクしてますが、『幼なじみ』が諸事情により全く進んでないので、こっただけで全然平気です。

ぜろ

あの人に捨てられて。

私は深い深い闇の底にいた。

そんな私を救ってくれたのは。

あの人とは正反対で。

でも優しいところは同じで。

太陽のような笑顔の彼でした。

彼の笑顔に癒されて。

彼の優しさに涙した。

まさか、こんなに好きになるとは思わなかった。

彼だけじゃない。

彼の友だちもみんな優しくて。

私はひとりじゃないんだってそう思った。

ありがとう。

貴方に会えて本当によかった。

大好きだよ。

ずっと、ずっと一緒にいてね。

これはそんな私のお話。

いち

「すまない。別れてくれ。」

「え……………」

突然の言葉。

私はそんなことを言われるとは全く思っていなかった。

彼は苦しそうな、でも決意した目をしていて。

外ではセミの音が響いている。

窓もドアも開いていないはずなのに、風がすうっと通った。

「な、んで……………」

私が尋ねると彼は眉間のしわを増やした。

彼が口を開く。

「……………華恋かれんを好きになった。」

私はたぶん真つ青になっていたと思う。

また、華恋？

「……………そっか。国光がそう言うなら仕方ないよね。」

泣きそうになった。

でもここで泣いちゃいけない。

そう思った。

「いいよ、別れよう。」

別れの言葉を告げ、私は部室を飛び出した。

私と華恋は双子。

名前も華恋と華鈴<sup>かりん</sup>で似てる。

見た目も一緒。

でも双子といってもお互い違う人間。

性格は全然違う。

社交的で人懐っこく誰とでも仲良くなれる華恋。

引っ込み思案で、すぐには人と仲良くなれない私。

昔から私にとって華恋はコンプレックスだった。

みんないつも私と華恋を比べる。

そして華恋を選ぶ。

両親だってそうだったんだもん、仕方ないよね。

国光が華恋を選んで。

私は自分に言い聞かせた。  
そうしないとぼろぼろになりそうだったから。  
屋上まで一気に走って行って、やっと泣いた。  
屋上からはテニスコートがよく見えた。

「華鈴。」

名前を呼ばれて振り向いた。  
よく知ってる声。

安心する声。

大好きな、大切な幼なじみの声だ。  
涙でぐちゃぐちゃになった顔を拭って顔を上げた。

「周ちゃん……………」

幼なじみの不二周助。

物心つく前から一緒にいた。

もちろん、由美子ちゃんも裕ちゃんもだけど。

周ちゃんは私のほうにやってきて、私をそっと抱きしめた。

「僕の前で強がらなくてもいいよ。つらかったんだよね。」

ああ、なんで周ちゃんにはわかつちゃうんだろ。

昔からそう。

国光を物扱いする気ではないけど、華恋は私の物を欲しがる癖がある。

親も華恋ばかりを猫可愛がりして、華恋が欲しいと言ったら私の物でもすぐにあげてしまう。

紗羅ちゃんにもらったお気に入りのうさぎのぬいぐるみや、自分で買ったストラップ。

華恋にとられた時はいつも周ちゃんがそばにいてくれた。

「周、ちゃあん。なんで？なんで国光なのっ？！初めて好きって言ってくれた人なのにつ！！どうして華恋は私からなにもかも奪っていくの？！」

大声をあげて泣いた。

私が泣いている間周ちゃんはずっと私の背中をさすってくれた。

「華鈴。なにもかもじゃないよ。僕も姉さんも、裕太も華鈴が大好きだよ。紗羅さんだってそうだよ。………ねえ。紗羅さんに言われてるんでしょ？あの家を出て一緒に住まないかって。行ってみたらどう？」

周ちゃんの言葉に、私は嬉しくなった。

ひとりじゃない。

ひとりじゃないんだ。

紗羅ちゃんっていうのは、私の大叔母さん。

ひいおじいちゃんの末っ子。

つまり、私からすればおじいちゃんの妹。

でも、紗羅ちゃんにはひいおじいちゃんの晩年の子どもで、お母さんよりも歳若い。

ひいおじいちゃんの本城財閥をついで、女社長をやっている。

私は何故かその紗羅ちゃんにとても気に入られてる。

そして、一緒に住まないかって言われてる。

「ん……。そうし……ようかな。このまま国光……。手塚くんと華恋が付き合うのは見ていられないと思うから。」

「そうしたほうがいい。紗羅さんは神奈川に住んでるから、今までみたいには会えないけど……。会いに行くからね。」

周ちゃんはそう言ってにこっと笑った。

お父さんとお母さんに話したらあっさり許可をもらえた。

華恋にしか興味はないからね、あの人たちは。

紗羅ちゃんは言うまでもなく大喜びしてくれた。

早速来週から紗羅ちゃんと暮らすことになった。

中学の編入試験も受けて合格できた。

こんな中途半端な時期に編入できたのは紗羅ちゃんがなにかしたかららしい。

……なにをしたかは恐ろしくて想像もしたくないけど。

青学では転校することを周ちゃん以外には誰にも言わなかった。

そして今日。

私は立海大学付属中学の3年に編入する。

## いち（後書き）

うーん…………。

華鈴ちゃんのお相手（？）出て来なかったですね。

キーワードで誰かはわかると思いますが。

さて、補足説明です。↑補足しなきゃわかんない小説ってどうなんだろう…………。

今回名前だけ出てきた華恋。

華鈴ちゃんの双子の姉です。

性格はいい子なんですが、何故か華鈴ちゃんを毛嫌いしてます。

たいていの人は華鈴ちゃんより華恋が好きです。

今出てきてる例外は、不二、由美子さん、裕太、紗羅です。

他にもいるんですけどね。

ちなみに上記の4人ははっきり言って華恋を嫌ってます。

こんなもんかな？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7591/>

---

闇を拭う笑顔

2010年10月9日18時31分発行